分野別研究組織成果報告（2019 年度）

嗅覚刺激による想起経験が
高齢者の認知機能および精神的健康に及ぼす影響に関する研究

Influences of Autobiographical Memory Cued by Odor on
Cognitive Functions and Well-being for Elderly

山本　晃輔　（YAMAMOTO Kohsuke）

超高齢社会への移行から，増加する高齢者における認知機能および精神的健康の低下が社会問題となっている。本研究組織では，これまで報告されてきた嗅覚刺激によって記憶が促進される認知モデルをさらに発展させ，嗅覚刺激による過去および未来事象の想起が高齢者の認知機能，精神的健康を改善する機序を解明し，それらの知見を高齢者の支援プログラムへと高めていくことが目的である。

今年度は大別して 4 件の研究を行った。研究 1 では，本研究における重要な指標の 1 つである嗅覚イメージ鮮明度質問紙の日本人版を開発するための調査，実験を行った。研究 2 では，アロマの専門家と一般人における嗅覚イメージ能力の比較を行った。その結果，専門家は一般人よりも嗅覚イメージ能力が高いことが示唆された。この結果は，嗅覚イメージ能力が学習，訓練によって促進可能であることを示唆しており，高齢者での応用が期待できる。研究 3 では，高齢者を対象に実験，調査を行い，嗅覚同定能力検査，嗅覚イメージ能力尺度，一般的認知機能などの関係性を検討した。その結果，嗅覚同定能力と嗅覚イメージ能力には有意な相関関係が確認されたが，一般的な認知機能と嗅覚同定能力，嗅覚イメージ能力には明確な相関関係が確認されなかった。研究 4 では，自伝的記憶の特性をより詳細に測定することのできる AMCQ(Autobiographical Memory Characteristics Questionnaire)の日本語版を作成し，その信頼性および妥当性を検討するための実験，調査を行った。これらの知見は次年度の学会で発表予定である。関連する研究発表も含め，今年度の学会発表件数は計 8 件であり，学術論文は計 5 編が審査の結果，採択された。

【主な研究成果】

山本晃輔・横光健吾（2019）嗜好品による自伝的記憶の機能尺度の開発 パーソナリティ研究, *28*, 67-79.

山本晃輔・綾部早穂・猪股健太郎（2019）アロマの専門家と一般大学生における嗅覚イメージ能力の比較　日本味と匂学会誌, *53*, 95-96.

山本晃輔（2019）若年者と高齢者における嗅覚イメージ能力と主観的幸福感 大阪産業大学論集 人文・社会科学編, *36*, 43-50.

山本晃輔・小林剛史・小早川達（2019）　高齢者における嗅覚同定能力，嗅覚イメージ能力，主観的幸福感，自伝的記憶想起の関係性 日本心理学会第 83 回大会発表論文集.

山本晃輔（2019）嗅覚的手がかりによる無意図的想起におけるポジティビティ効果 日本認知心理学会第 17 回大会発表論文集.